

特集

感染症外来診療

賢医の

発熱や悪寒などで感染症が疑われる外来患者さんは数多くいます。そのようななかで、どのような検査をし、どのような治療を行うかの判断は、大変重要です。もちろん、敗血症や髄膜炎、壊死性軟部組織感染症などでは、迅速な検査と治療が求められます。一方で、過剰な検査は、時に診断をミスリードし、そして過剰な抗菌薬の使用は、薬剤耐性菌を蔓延させます。

本特集では、感染症を専門とはしないプライマリ・ケア医や総合診療医、さらには薬剤師・検査技師・看護師などが賢い判断「Choosing Wisely」ができるよう、第一線の感染症医に、臨床的に重要な検査と内服薬について、また感染症の予防に重要なワクチンについても、その適用を中心に、「賢医がどのような選択をするのか」という視点でまとめていただきました。



検査

インフルエンザ迅速抗原検査
溶連菌迅速抗原検査・培養
ノロウイルス便迅速抗原検査
血清プロカルシトニン
皮膚開放創・褥瘡のスワブ培養
マイコプラズマ・RSV・アデノウイルス迅速検査



経口薬

抗インフルエンザ薬
経口第三世代セフェム系薬・
経口カルバペネム系薬
マクロライド
フルオロキノロン



予防ワクチン

小児のワクチン
インフルエンザワクチン
肺炎球菌ワクチン
破傷風トキソイドワクチン
渡航前ワクチン

選択

企画 | 徳田安春

今月の Questions

- Q1 インフルエンザシーズンに「インフルエンザが疑われる患者さんに迅速検査をしない」という選択肢もあるって、本当ですか？
- Q2 咽頭の溶連菌迅速抗原検査が偽陰性になる要素は？
- Q3 ノロウイルス胃腸炎の診断の手がかりとなるものは？
- Q4 血清プロカルシトニンとは、診療にどれくらい役立ちますか？
- Q5 皮膚開放創から創部培養は慣習的に提出しているが、これは本当に良いプラクティスなのか？
- Q6 表層の培養から多くの細菌が検出され、なかには耐性菌もいる。
これらは治療対象としないといけないのか？
- Q7 抗酸菌や真菌の培養は必要なのだろうか？
- Q8 迅速検査をどういう時に施行したらよいでしょうか？
- Q9 インフルエンザ治療・予防における抗ウイルス薬（ノイラミニダーゼ阻害薬）の使用で、最も大切なことは何でしょうか？
- Q10 経口第三世代セファロスポリンと経口カルバペネムを使用すべき臨床状況はあるのか？
- Q11 マクロライド系抗菌薬は何にでも効きそうですが、どのように使えばよいですか？
- Q12 急性膀胱炎の第一選択薬はフルオロキノロンでよいのか？
- Q13 児が熱性けいれんを起こしたら、ワクチンをどれだけ空ければよいのか？
- Q14 インフルエンザワクチンの効果は？
- Q15 外来において、肺炎球菌ワクチン接種の際に留意することは？
- Q16 破傷風トキソイドワクチンを接種すべき人は？
- Q17 患者が海外へ行く前にワクチンを希望されましたが、何をどうしたらよいのか、わかりません。